

日本模擬国連(JMUN)

広報誌

2023



02.

代表挨拶

03-04.

年間活動報告(JMUN)

05.

年間活動報告(全国大会)

06.

年間活動報告(全米団)

07-09.

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

代表挨拶

本広報誌をご覧の皆様こんにちは、2023年度日本模擬国連(以下、JMUN)代表を務めておりました、駒場研究会神メン(執筆時)の田部井淳志です。昨年に引き続き、こちらでJMUNの活動について皆様にご報告させていただければと思います。

私が模擬国連をはじめてからの4年間は、新型コロナウイルス感染症との戦いという側面を常に持ち続けていました。全ての活動がオンライン化を余儀なくされたこともありましたが、徐々にその脅威が弱まるにつれ、対面での模擬国連活動も復活してきました。今年はずいにほぼ全ての全国大会がコロナ以前の時代と同様に完全な形で対面開催に漕ぎ着けるなど、模擬国連という活動がコロナ禍の苦難を乗り越えて存続できたことが様々なところからわかります。

このように魅力的な模擬国連という活動を支えてくださっている全ての皆様に心からの敬意を表し、感謝し、そして今後の模擬国連の輝かしい未来を願い、私からの挨拶とさせていただきます。今後ともJMUN並びに模擬国連をどうぞよろしくお願いいたします。

(2023年度JMUN代表・田部井淳志)

年間活動報告 (JMUN Office)

派遣事業

8回の派遣事業を行い、高校・大学などで模擬国連活動の普及に務めました。全て対面での開催が叶い、コロナ禍からの回復を感じさせられる一年でした。

個人協賛・企業協賛の増進

今年も昨年に引き続き個人協賛をいただいたほか、企業協賛も新たに行い、合計20万円のご協賛をいただくことができました。学生会員の負担軽減に繋がりたいと思います。

「模擬国連の探求」編集・発行

これまで個人的な活動として編集・発行が行われていた雑誌「模擬国連の探求」を管轄することにし、季節ごとの模擬国連の活動をまとめ始めました。JMUN HPなどにもバックナンバーを保存しておりますのでよろしければご一読ください。また、寄稿についてもお待ちしております。寄稿に関するお問い合わせ等は最終ページをご覧ください。

MUNBISNETリニューアル

コロナ禍以前のまま凍結されていたMUNBISNET(会議情報をまとめたページで、JMUN HPからご覧いただけます)を改修しました。皆様にご協力いただき、700弱の会議情報をご覧いただけるようになりました。是非ご活用いただければと思います。

模擬国連ガイドブック第4版編集・発行

長らく第3版を発行し続けていた模擬国連ガイドブックですが、この度大幅な加筆・修正・編集を行い、第4版を発行することになりました。東日本事務局の方々、ご寄稿いただいた方々をはじめ、第4版の発行にあたりご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。

フロントハンドブック編集・発行

以前から発行していたJMUN Chairperson Handbookに加えて、「ディレクマニュアル」と「セクガイド」を組み合わせたフロントハンドブックを作成しました。今後フロントをされる方々の参考になれば幸いです。

年間活動報告 (JMUN Office)

会計制度統一

予算、決算、帳簿のフォーマットを統一し、各主催事業・事務局から提出いただくことにしました。主催事業には総会にて決算報告をしていただきます。各団体の皆様、ご協力ありがとうございました。

JMUNアドバイザーの創設・派遣

JMUNの内部向けの取り組みとして、JMUN所属団体内で人的支援が必要なところへの派遣をはじめました。本年度は名古屋春一会議、名古屋新歓会議にフロントやデリを派遣させていただきました。

HPリニューアル

JMUN HPの各所をリニューアルし、各種の文書もまとめ直しました。是非ご覧ください。

年間活動報告(全国大会)

第23回模擬国連会議関西大会(2023年8月21日～23日)

議題:

「気候変動に関する国際連合枠組条約
気候変動に関する国際連合枠組条約
第1回締約国会議」
「アルジェリア問題」
「植民地独立付与宣言」
「キプロス情勢」
「ジェノサイド条約案の検討」
「宇宙空間における軍備競争の防止」

コメント:

本大会は、2001年に第一回大会が京都の地で開催されて以来、2023年で23回目の開催を迎えることができました。例年と同規模となる6会議を設置し、歴代最大規模となる270名を超える関係者が集まるなど、会議や所属を超えた賑わいが見られたのは事務局としても喜ばしい限りです。各会議では、デリだけでなくフロントによる多くの挑戦的な取り組みが見られましたのも特筆すべきでしょう。模擬国連の発展のため、そのきっかけとなる環境と機会を提供できたのであれば幸いです。

今後とも、本大会へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。
(事務総長・小野雅崇)

第29回九州サマー・セッション(2023年9月5日～8日)

議題:

「リビア情勢 -Libyan Arab
Jamahiriya Situation-」

コメント:

今年度は、初めての試みとなる福岡県福岡市で大会を開催しました。事務局としても初めての試みであり、例年のシステムを見直したりと挑戦の年となりましたが、皆様のご協力により、無事大会を終えることができました。会議においても活発な議論が見られ、企画においても「九州サマーセッションらしさ」を味わっていただけるような大会となったと感じています。改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。今後ともご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(事務総長・山本凜)

第35回模擬国連会議全日本大会(2023年12月27日～30日)

議題:

「湾岸危機」
「巴里講話會議」
「ポルトガル施政地域に関する問題」
「情報セキュリティに関する政府専門家会合」
「国連海洋法条約第11部実施協定」
「世界サミット」

コメント:

4年ぶりの完全対面での開催となりました。全国から多くの方にご参加いただき、大変賑わいのある4日間でした。

皆様のご協力がなければ成り立ちませんでした、改めて感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

(事務総長・田中萌絵)

年間活動報告(全米団)

模擬国連会議全米大会第41代日本代表団派遣事業

2023年

政策立案型日本語会議(8月9日)
政策立案型英語会議(8月16日)
選考プロセス(8月30日~10月31日)
第1回団員育成プログラム(11月4~5日)
第2回団員育成プログラム(12月9~10日)

2024年【暫定】

第3回団員育成プログラム(1月13~14日)
第4回団員育成プログラム(2月10日)
政策発表会(2月11日)
第5回団員育成プログラム(3月2~3日)
第6回団員育成プログラム(3月9~10日)
渡米プログラム(3月14日~3月30日)
全米大会(4月25~29日)

コメント:

全米団第41代運営局は8月に全米大会と同様の政策立案型会議を日本語と英語の両方で開催しました。9月から2ヶ月に渡って行われた選考プロセスを経て、11月から来年4月に行われる全米大会に向けた準備を開始しています。今年3月に派遣団員と団長が渡米している間にはJMUNへの政策立案の機会の提供を目的とした全米団会議を主催する予定です。そのほかにも2月には団員の政策立案の成果を披露する政策発表会を実施します。そして、3月に渡米し、全米大会に出場したのちに、帰国後の6月には事業報告会を実施する予定です。

(団長/運営統括・大滝怜奈)

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

東日本 事務局

五研追いコン(参加者不足により中止)
山手線散歩企画(2月26日、追いコンの代替として)
春の関東総会(3月19日)
五研春一企画(5月7日)
五研 BBQ 企画(6月3日、台風のため中止、Zoomで企画実施)
臨時関東総会(7月1日)
五研花火企画+観光企画(8月9日)
ボードゲーム企画(9月2日)
五研新メン会議「UNCLOS XI/ルワンダ情勢/障害者権利条約/トラテロルコ条約(4議場)」(10月1日)
五研 OBOG 会(11月4日)
臨時東日本総会(11月12日)
冬の東日本総会(12月10日)

コメント

今年は、関東五研の研究会間交流に重きを置き、様々な企画や会議を行いました。今年の企画・会議のフィードバックを行い、来年以降は企画や会議のクオリティをさらに上げることなどに注力できればと思っております。

(事務局長・内田岳広)

四ツ谷 研究会

強化会議「宇宙空間の探査と利用における国家の活動を律する法原則に関する宣言」(3月11~12日)
春の1日体験会議「第3回気候変動枠組条約締約国会合」(4月15~16日)
新歓会議「商業捕鯨の終焉」(5月13~14日)
前期会議「死刑執行モラトリアム」(6月24~25日)
葉月会議「水と衛生に対する人権」(8月11~12日)
新メン会議「2010年NPT再検討会議」(10月14日)
後期会議「平和への権利宣言」(11月25~26日)

コメント:

今年度四ツ谷研究会は多種多様な会議を開催し、楽しく、懸命に模擬国連を追い求めて参りました。また様々なイベントも行うことで、会議内外において交流を深めることができました。この場をお借りして活発に会議に関わってくださったすべての方に感謝を述べさせていただきます。今後とも四ツ谷研究会をよろしく願い致します。

(会長・五十嵐萌伽)

国立 研究会

強化会議「リビア情勢」(3月1~2日)
春一会議「第21回気候変動枠組条約締約国会合」(4月29~30日)
新歓会議「緊急時および復興期における万人のための教育」(5月20~21日)
前期会議「中国代表権問題」(6月23~24日)
秋会議「難民の地位に関する条約」(10月14~15日)
後期会議「スエズ動乱」(12月2~3日)

コメント:

国立研究会は今年1年間様々な時代の多種多様な議題に取り組んでまいりました。多様な大学から人が集まる研究会だからこそ、どの研究会よりも多様性に富んだ活動をする事ができたと思います。国立研究会を支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。今後ともぜひ国立研究会をよろしく願いいたします。

(会長・瀧本悠美)

駒場 研究会

強化会議「イラク戦争(イラク=クウェート情勢)」(事前会合3月10日、本会合3月16~17日)
春の1日会議「核不拡散条約」(4月23日)
新歓会議「第3回気候変動枠組条約締約国会合」(5月20~21日)
前期会議「保護する責任」(6月17~18日)
秋会議「南ローデシア情勢」(10月14~15日)
駒場新メン会議「対人地雷の扱い(特定通常兵器使用禁止制限条約第1回再検討会議)」(10月21~22日)
後期会議「不干渉原則宣言」(11月18~19日)

コメント:

今年は従来の会議に加えて秋会議を実施し、年間で計7つの会議を開催しました。各会議の議題はどれも挑戦的なものでしたが、上級生はもちろん、新入生も積極的に議論に参加したことで、期待以上の盛り上がりを見せました。また、今年の会員は互いに親睦が深く、運営代開始当初に目標としていた「コミュニティとしての研究会の充実」という目標も達成できました。駒場研究会及び模擬国連を支えてくださっている皆様に心から感謝申し上げます。

(会長・小山大雅)

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

早稲田 研究会

強化会議「Vienna Declaration and Programme of Action ウィーン宣言及び行動計画」
春一会議「Question of equitable representation on and increase in the membership of the Security Council and related matters 安全保障理事会改革」
新歓会議「Declaration on the Rights of Indigenous Peoples 先住民族の権利に関する国連宣言」
前期会議「The New International Economic Order 新国際経済秩序樹立宣言」
秋会議「The Situation in Kampuchea カンボジア情勢」
後期会議「Diplomatic Conference for the adaptation of a convention on cluster munition クラスター弾に関する条約採択のための外交会議」

コメント:

年頭を思い返せば、コロナの規制もまだ世の中に残っている状態で、しかしながらその解除が予想されることから運営代が始まりました。以降、久方ぶりの強化合宿にはじまり、春一を除いたすべての会議を宿泊付きで開催し、対面での本格的な新歓を行うことができました。入会数も順調に増加し、また会員が他研や五研新、全国大会の場で活躍することも増えたように思います。

時流が変わり、研究会が変化拡大していく中であっても、わせけんが皆様にとって心地いい居場所であり続けることを祈り、また確信しています。一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。引き続き模擬国連早稲田研究会をよろしく願い申し上げます。

(会長・松本奎)

日吉 研究会

強化会議「国際連合気候変動枠組条約第15回締約国会議」(3月5~7日)
春の一日会議「国連気候変動枠組条約第26回締約国会議」(4月15~16日)
新歓会議「国際連合安全保障理事会改革」(5月13~14日)
前期会議「ウイグル問題」(7月8~9日)
秋会議「ボスニア・ヘルツェゴビナ情勢」(9月23~24日)
後期会議「第二回国際連合海洋法会議」(11月25~26日)

コメント:

この1年間我々日吉研究会28期運営代を支えてくださった皆様、誠にありがとうございます。時が経つのも早いもので、28期の運営代ももう終わりです。新型コロナウイルス感染症の影響から次第に立ち直りつつあった一年、断絶した様々なカルチャーが舞い戻ってきた一年でもありました。そのどれもが我々には目新しく、時には戸惑うこともありつつ、一年間の運営代を同期一同駆け抜けてきました。同期も、先輩も、後輩も、そして外から日吉研究会を支えてくださった皆様、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。来年は日吉研究会にとって30年目の節目となります。今後とも末長く、日吉研究会をよろしく願いいたします。

(会長・大野秀征)

西日本 事務局

春の関西総会(2/21)
新歓相談会(2/24)
プロシージャ会議・交流会企画(5/27)
紫陽花フェスタ(BBQ企画)(5/28)
冬の西日本総会(12/2)

コメント:

西日本の模擬国連活動を盛り上げることを目標に掲げ、その為に尽力した1年間でした。まさに「温故知新」の活動コンセプトのように、故きを温ねて新しきを知ることが出来た長いようで短い1年だったと思います。今後も西日本の模擬国連界隈が活発であり続けられることを期待しています。

(事務局長・藤田高広)

京都 研究会

春会議「アパートメント問題」
新歓一日会議「安保理改革」
新歓オリ会議「核軍縮不拡散」
前期会議「紛争ダイヤモンド」
新メン会議「コンゴ動乱」
後期会議「宇宙条約」

コメント:

今年は多くの研究会会議や企画、勉強会等の活動を開催し、すべての研究会会員がそれぞれの仕方で模擬国連会議とその他研究会の取り組みを楽しみ、それらにコミットしたことを確信しております。2023年の京都研究会の運営にご協力・ご理解いただいたJMUNに関わるすべての皆様、大変お世話になりました。

(会長・宮城呼生)

年間活動報告(事務局/研究会/支部)

神戸 研究会

春の1日体験会議「安全保障理事会改革」(4月15日)
オリエンテーション会議 5/20・21「COP21」(5月20日～21日)
前期会議「ウィーン宣言及び行動計画」(6月25日、7月1日～2日)
秋会議「第三次印パ戦争」(9月30日～10月1日)
後期会議「先住民族に関する国連宣言」(11月12日、11月18～19日)

コメント:

2月に30代の運営代管轄の冬会議が控えていますが、この1年間では5つの会議を行いました。新歓及び春一オリと流れを作ることができ1年間を線で結んだような、一貫的な活動ができたと思います。前期会議・後期会議は研究会のレベルの向上に向けた骨のある会議だったと思いますし、その他企画や通活も盛り上がり活気を見せていたと思います。神戸研は向上する競える笑える泣けるようなそんな「場所」になったのかなと思いますしその自負もあります。1年間ありがとうございました。みなさまとともに神戸研を作れたこと誇りに思います。本当にありがとうございました。

(会長・都築克昌)

九州 支部

Golden UN Camp「国連気候変動枠組条約第15回締約国会合/京都議定書第5回締約国会合」
前期会議「The situation in the Middle East(中東情勢)」
後期会議「発展の権利に関する宣言草案の検討」

コメント:

今年度は対面会議と月に一度のオンライン通活を通して大学間の交流を深めました。新たな挑戦や、これまでとの変化等がありつつも、比較的安定した活動ができていたかなと感じます。会議や運営面、それぞれに見えてきた課題も多くありますが、今後うまく向き合いながら九州支部、そして模擬国連全体が発展していくことを願っております。1年間ありがとうございました。

(支部長・楠芽依)

名古屋 支部

春一会議「気候変動枠組条約第26回締約国会議」
新歓会議「生物多様性条約第10回締約国会議(名古屋議定書)」
前期会議「シリア情勢」
後期会議「アパルトヘイト問題」

コメント:

はじめに、今年一年間名古屋支部の活動を支えてくださった、他研究会の先輩・同期の「もぎこっかー」の皆様には厚く御礼申し上げます。皆様方の協力を賜りまして、次へのステージに繋がる一年となりました。今年は、上記のように会議を開催しました。どの会議も活発で大変充実したものとなりました。最後になりますが、多くの方々に関わりながら、より一層の成長をお届けできるようこれからも全力で取り組んで参ります。引き続き名古屋支部をよろしくお願いしたいと思います。

(支部長・高田晋平)

北陸 支部

後期会議「平和のための結集」
新歓会議「安全保障理事会議席の衡平分配と拡大」
前期会議「中国代表権問題」
秋会議「第三次国連海洋法会議」
冬会議「銃器議定書」

コメント:

去年より支部内会議数が2つ増え新メン、旧メンを中心に経験値を貯めることができた。また、会議を外部に開放することで他支部、他研との親睦が深まったことも良かったと思う。

(支部長・村上航生)

個人協賛金寄付者のご芳名

小林碩志 様 坂本生民 様 高橋タイマノフ尚子 様

窪嶋優希 様 小森谷裕司 様 松田裕 様

企業協賛金

株式会社アレスグッド 様 株式会社ディー・エヌ・エー 様

皆様の温かいご支援にJMUN会員一同深く御礼申し上げます。
これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

編集後記

多くの方々のご協力をいただき、「日本模擬国連 広報誌 2023」を無事に発行することができました。今年度もこれまで以上に活発な活動がみられ、大変喜ばしいことだと感じます。年明けから災害などの出来事が続いておりますので、皆さまお体に気を付けてお過ごしください。今号の発行にあたり、寄稿して下さった皆様に、心より感謝申し上げます。

連絡先

代表 : president@jmun.org

派遣事業お問い合わせ先 : project.jmun@gmail.com

渉外担当お問い合わせ先 : externals.jmun@gmail.com

「模擬国連の探求」寄稿およびお問い合わせ先 : research.dept.jmun@gmail.com

ホームページ : <http://jmun.org/>

Twitter : https://twitter.com/jmun_official

Facebook : <https://m.facebook.com/profile.php?v=feed&id=15870005419623>